

事業報告書

令和2年度

社会福祉法人 福鳳会

社会福祉法人福鳳会

概況及び基本理念

<はじめに>

基本理念の下、敬老愛護、お客様ファーストの実現に向けて、他に少ない価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化、職員資質向上への取り組みと職場環境の改善に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対策に努めるとともに、新棟西館「いこい」が令和3年1月に運用を開始した。

《敬老愛護、お客さまファーストと安定した経営の両立》

- ◎ 他に少ない、価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化に努めた。
 - ・ 介護度の高いご利用者に対応するため、チェア浴と寝位浴の両方に対応可能な浴槽を新たに導入した（特養西館「いこい」と高志の郷デイサービス）。
 - ・ 高志の郷周辺の市街化地域の多様なニーズとサービス付き高齢者向け住宅高志の郷との連携を起点とした新たな訪問サービス拠点の具体化に向けて準備に着手した。
- ◎ 新型コロナウイルス感染症対策に努めた。
 - ・ 発熱などの徴候のある職員は、職務命令により一定期間自宅待機するものとし、積極的な申告を促すため、自宅待機中は勤務したものとみなす制度を新設した。
 - ・ 入所施設ご利用者には面会制限を実施した。通所施設ご利用者には、ご本人、ご家族の発熱や、遠方からの来訪者との面会があった場合は、一定期間の利用停止のお願いをしてきた。
 - ・ 国が新型コロナウイルス感染症対策のため補助制度で整備促進を始めた内容を先取りする「改築・改修に関する基本的方針」に基づいて、西館「いこい」を整備（令和2年末竣工）した。

《職員の処遇改善と職場環境の改善》

- ◎ 職員の成長や能力向上努力と給与体系との連携の強化を進めた。
- ◎ 職場環境の改善に努めた。
 - ・ ICT、各種システムの活用による情報共有と、データ入力負担の軽減に努めた。
 - ・ 移乗ロボット「愛移乗君」に加えて、「いこい」のトイレ4箇所に移乗リフトを導入した。
 - ・ 職員負担を軽減するレイアウトや設備などを盛り込んだ西館「いこい」を整備した。

事業所数 10事業所

- ・ 特別養護老人ホーム 2事業所、併設型短期入所生活介護 1事業所
- ・ 通所介護事業 2事業所
- ・ 認知症対応型通所介護事業 1事業所
- ・ 訪問介護事業 1事業所
- ・ 居宅介護支援事業 1事業所
- ・ 地域包括支援センター 1事業所
- ・ サービス付高齢者向け住宅 1事業所

職員数 229名 (令和2年度正規職員 採用者数18名／退職者数11名)

男女比 1 : 3

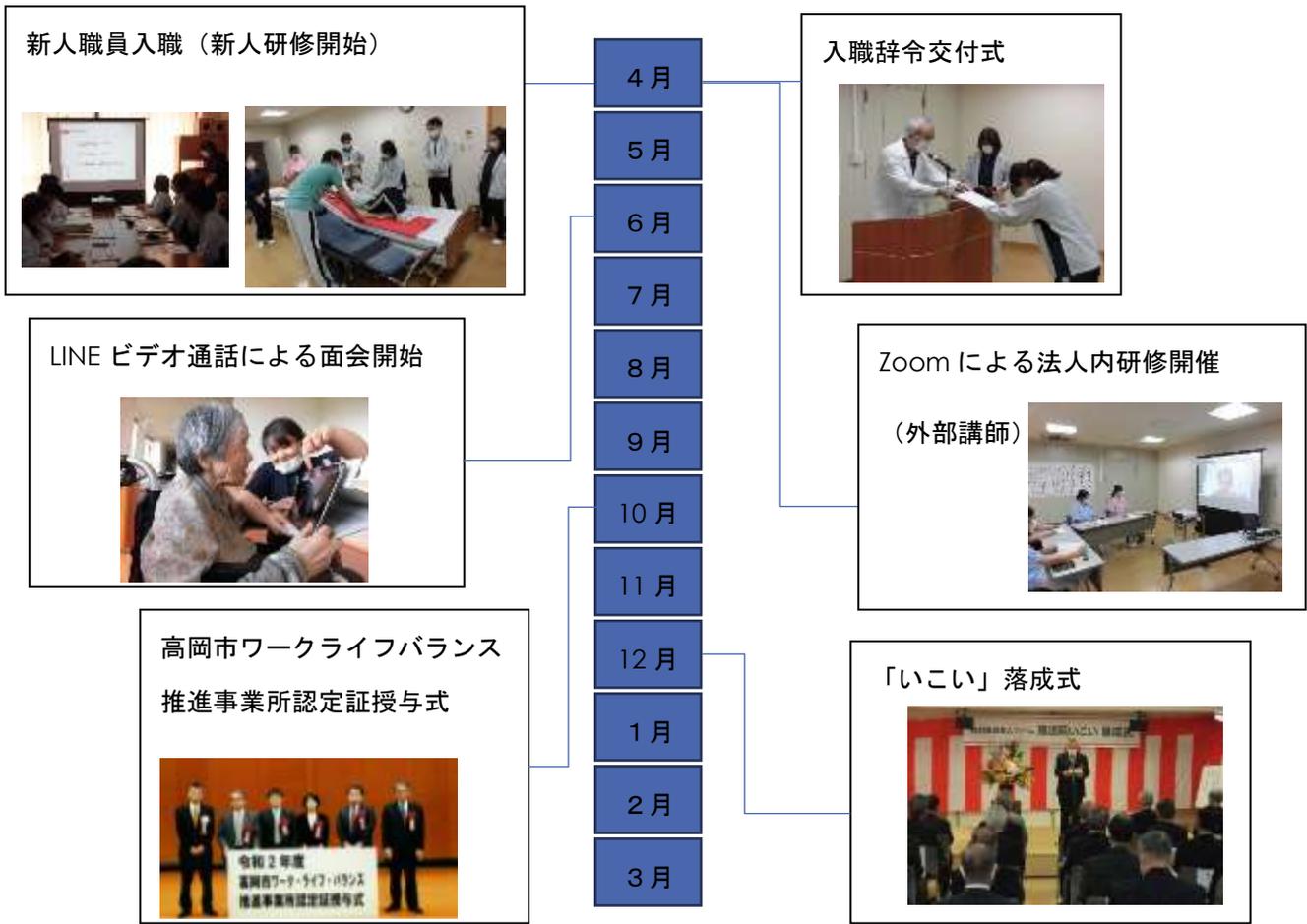
平均勤続年数／平均年齢 9年／46.2歳

(令和3年3月末現在)

基本理念

- ・ 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- ・ 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- ・ 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- ・ 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供できるように励み、地域社会活動にも積極的に関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

活動状況



・ 主な活動ポイント

- 法人内研修の充実。年間を通して法人内研修を開催
 - ・ 17項目の研修を延べ30日間実施し、延べ592人の職員が参加した。
 - ・ 自己啓発研修費貸与制度を利用した職員は 1名。（他、予定者3名いたがコロナのため未実施）
- 人材育成。定期的な面談を開始
 - ・ 職能要件書職能評価シートを使用した面談を、年3回実施を推進した。
 - ・ 職種別のラダー、チェックシートを活用した。
- 安全衛生委員会の定期的開催による職員の労働環境改善のための提案の随時実施
 - ・ 『整理・整頓の日』を活用することが定着している。5Sチェックシートを毎月活用し、不具合や業務の見直しを随時すすめた。
- 新規学卒者の採用活動推進
 - ・ 県内の養成校及び大学のみでは介護人材が少ないこともあり、県外の大学訪問(WEB)、説明会(WEB)や各種案内サイト等を活用してきた。また、新たに当法人の採用サイトを立ち上げた。

社会貢献活動



・ 主な活動ポイント

年間行事計画に基づき実施した。

○ 小学生親子バスツアー・高校生等福祉の体験

- ・ 富山県社会福祉協議会からの依頼により、福祉について広く知ってもらうために積極的にバスツアーを受け入れた。
- ・ コロナ禍の為、利用者様との交流はせずに動画や講義、グループワークを行うことで、福祉に対する理解を深めてもらった。（小学生親子10組、高校生10名参加）

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑

<事業概況>

○入居者数 従来型 70名・ユニット型 60名

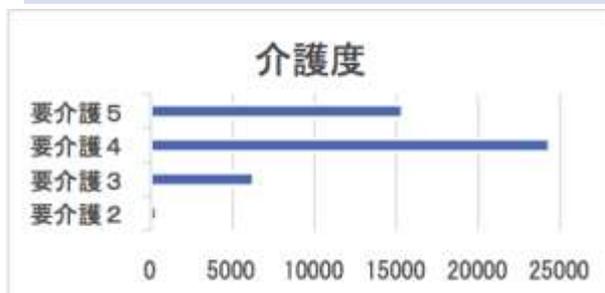
○年間稼働率 97.8%

○年間看取り者数 27名

○年間平均介護度 4.2

○年間平均年齢 88.2歳

○男性：女性 23名：107名



(人)

<活動状況>

サービス向上

- ◇ 介護力向上の取り組みを通じて、各ユニットで排泄介護等のケア方法について個々の利用者への対応を検討してきた。またスキントラブル及び褥瘡委員会が中心となり、褥瘡の発生状況をデータ化し、改善への取り組み方法を進めた。身体拘束及び不適切ケアについては、自分たちのケアを見直し、意識付け、注意喚起を行い、根拠のあるケア、相手を思いやるケアを目指したケアに向けて継続して取り組むように進めてきた。今後もさらに維持・向上できるように多職種で連携し対応していく。
- ◇ 多職種協働で、口腔ケア計画を推進した。歯科衛生士の口腔ケア指導を月3回受け、利用者の状況に合わせた口腔ケアを継続して行った。定期的な指導により口腔清潔・機能の維持を図った。栄養管理委員会や担当者会議を通じて継続した支援を行った。

業務改善

- ◇ 多職種での情報共有のため、ワイズマンシステム、Mell+システム、kintone の活用も継続して行い、情報共有を進めた。また、Mell+システムでは、家族連携を勧め、50名の家族に使用してもらい、面会予約や日常の情報提供等に活用している。
- ◇ 西別館建設に向けてスムーズな移行のための話し合いや体制づくりを行い、「いこい」として1月稼働をスムーズに行った。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

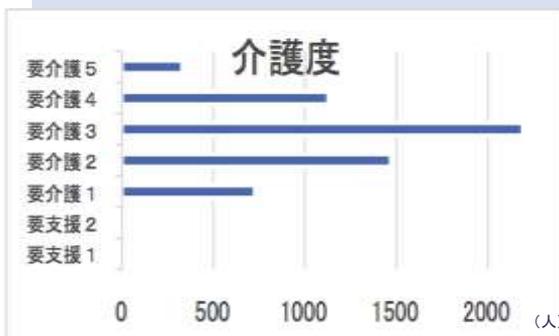
併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

< 事業概況 >

- 定員数 多床室 14名・個室 4名
- 年間稼働率 89.0%
- 年間延利用者数 5,850名
- 年間平均介護度 2.8
- 1日平均利用者数 16.0人



※令和3年1月以降は、本館改修のため実受入床数を4床削減して運用している。



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 利用者及びご家族の意向確認については、ケアプランや担当者会議、利用等の際に随時確認している。介護記録等は随時行っている。ケアプランの立て方や流れなどについても随時見直しを図ってきており、今後も随時見直しを図っていく。
- ◇ 令和3年1月のいこいの運用開始に伴い、暫定的に新館に集約した。移動に際して、新館へ移動後の対応がスムーズに行えるよう検討したが、細かな業務の取り決めが出来ておらず混乱した。令和3年度には、さらに移動があるため、スムーズに対応できるように検討していく必要がある。
- ◇ 感染防止に対して、受け入れ時の検温や体調確認、退去時の情報提供は年間を通して行っている。また、利用中に変化が見られた場合は、隔離できる場合はすぐに隔離し、家族等と連携を図りスムーズな受診につなげている。

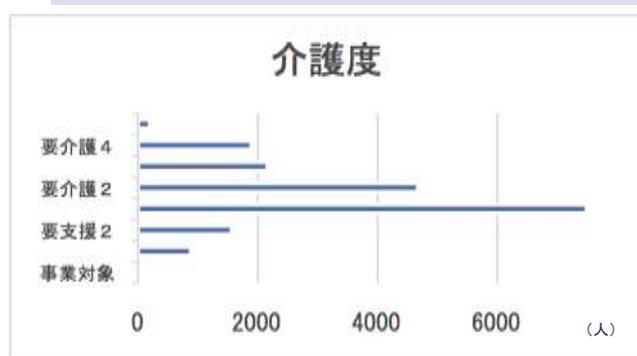
業務改善

- ◇ 新規利用者の獲得を随時行い、できる限り要望に応えながら次につなげている。また、居宅介護支援事業所との連携を図るため定期的に訪問をした。いこいの1月稼働に伴って、実受け入れ床数が18床から14床に減少した結果、年間稼働率は89%となった。今後も本館改修の終了までは減少状態が続くが、場所移動に伴う受け入れ体制の変更を柔軟に行っていく。

鳳鳴苑デイサービスセンター 通所介護事業所

< 事業概況 >

- 定員数 70名
- 年間稼働率 86.3%
- 年間延利用者数 18,793名
- 年間平均介護度 1.7
- 1日平均利用者数 60.4人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 新型コロナの感染予防の観点から、営業を行うことが困難な状況となった。このため、その都度、感染状況を確認しながら営業を行った。事業所の空き情報をもとに新規の利用希望の連絡があるため、今後も継続的に空き情報の提供を行い、居宅支援事業所・地域包括事業所との連携に努める。
- ◇ 新型コロナの感染拡大予防の観点から、行事を縮小せざるを得なかった。
- ◇ 実施できない余暇活動もあり、利用者に理解していただけるように働きかけた。感染状況を確認しながら、今現在何ができるのかを模索しながら利用者を楽しみを提供できるよう今後も検討していく。

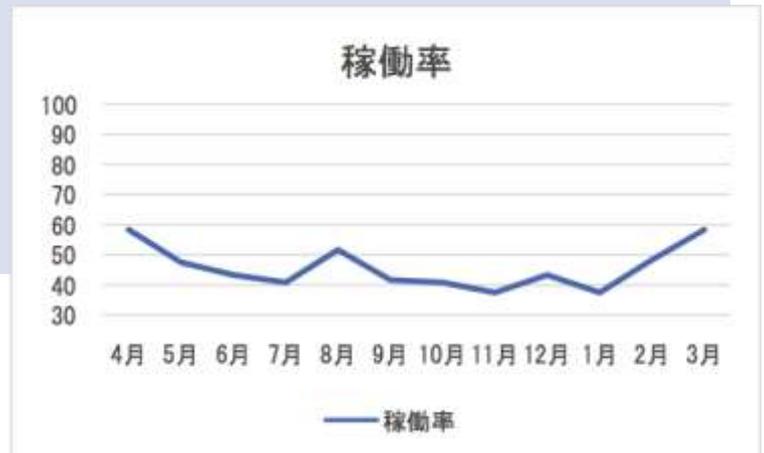
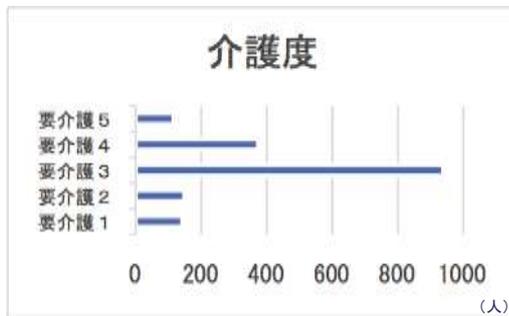
業務改善

- ◇ 稼働率に関しては目標稼働率85%をクリアしており、今後も新規利用者を獲得し登録者を増やすよう努めていく。
- ◇ 8時間から9時間への移行については、利用者及び家族の意向を確認しながら随時検討している。

鳳鳴苑デイサービスセンターえがお 認知症対応型通所介護事業所

<事業概況>

- 定員数 12名
- 年間稼働率 45.9%
- 年間延利用者数 1,716名
- 年間平均介護度 3.1
- 1日平均利用者数 5.5人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 利用者様を敬うような言葉が少なく感じられ、統一したケアに繋がられなかった。職員全員が認知症の方を理解し、統一したケアが行えるよう会議等で周知を図ったが十分ではなかった。
- ◇ ご家族やケアマネージャーとの情報共有は円滑に出来た。特に当苑ケアマネージャーや法人内ヘルパー、ショートステイ事業所とは、メルタスを使用しての情報共有が出来たため、職員一人一人が意識して確認し、利用者様とコミュニケーションを図ることで安心して過ごして頂けるように努めた。

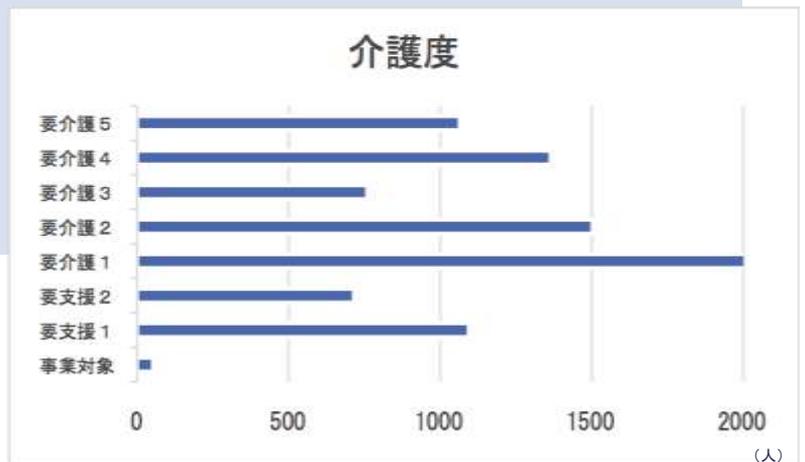
業務改善

- ◇ 1日の利用者数は平均5人と少なく、稼働率は目標を大きく下回る結果となった。新規獲得者数も伸び悩んだ。主な要因としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う利用数減少、新規獲得者はあるものの入院・施設入所などで利用の継続に繋がらず、地域内で休業していた認知症対応型デイサービスの再開や、他事業所からの紹介がほとんどない状態だったことが考えられる。
- ◇ 利用者様の個々の状態の把握、ご家族様の要望等に柔軟に対応し、個別性を重視したサービスを提供することができた。素早く対応できるように送迎時間等を職員全員が把握し連携を図るよう努めたが、スムーズに連携できていない面も見られた。現在、送迎車両1台での送迎となっている為、対応が限られていることも要因のひとつかと思われる。

鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問介護事業所

< 事業概況 >

- 年間延利用者数 8,414名
 - 身体介護延利用者数 3,606名
 - 生活援助延利用者数 2,744名
 - 折衷型介護延利用者数 359名
 - その他 1,705名
- 年間平均介護度 2.2
- 平均利用回数 23.1人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 利用者さまがその時々に必要なサービスが提供できるよう、多職種との相談、連携を心がけた。
- ◇ 土日については、主に身体介護の需要に対応するため、新たに12月から職員が交替で8時間勤務を行うこととした。また、祝日は2人以上の出勤で対応している。
- ◇ サービス提供責任者からの状況確認や報告、指導等により、職員、登録ヘルパー間の申し送りも密になり、より満足の頂けるサービスに繋げることができた。

業務改善

- ◇ 新規の相談を積極的に受け入れ、ケアマネージャーとの繋がりを持つことで次の新規利用者の獲得に繋がった。
- ◇ 11月よりタブレットを導入し、業務の効率化、ペーパーレス化を図った。
- ◇ 総合事業の需要が増えているため、サービス提供責任者を増員し積極的に受け入れを行った。また、区分変更で要介護になる方が増えたことも、サービスの利用増加に繋がった。

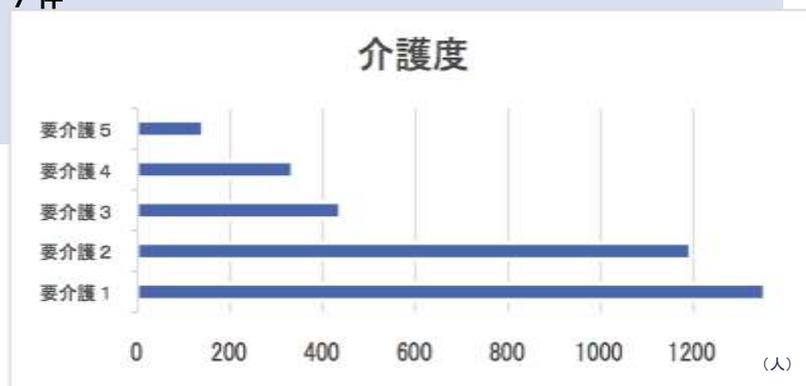
在宅介護支援センター 居宅介護支援事業所

<事業概況>

○年間ケアプラン作成件数 3,477件

○月間一人当たり作成件数 29件

○年間認定調査件数 148件



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 利用者の自立支援に資するケアマネジメントを目指し、住み慣れた地域で馴染みのある生活が送れるよう、地域の方々や関係機関との永続的で強固な連携に努めた。これによって、新たに関わることとなったサービス事業所が増え、利用者のサービスの選択肢も増えたと認識している。
- ◇ 新型コロナウイルスで面会制限を行う事業所が多々ある中、可能な限りの面会や特例に基づいた対応で加算を取得するよう努めた。ターミナル期の利用者の在宅看取りについても、医師等医療機関をはじめ、サービス事業所との連携に努めた結果、昨年度並みの退院・退所加算や、昨年度以上のターミナルケアマネジメント加算が取得できる見込みで、特定事業所加算Ⅳが算定できる見込みとなった。

業務改善

- ◇ 人員は十分満たしているが、年度初めは新型コロナウイルスによる緊急事態宣言中であったことや、介護保険認定更新者が減少する年度であったこと等が重なり、上半期の新規利用者獲得は不安定だった。下半期は経験の浅い介護支援専門員にも積極的に新規利用者を担当してもらい、新規利用者を取りこぼすことなく受け入れることができた。

木津・福田・佐野・二塚地域包括支援センター

< 事業概況 >

○年間相談件数 2,405件

○1日平均件数 8.9件

< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 高齢者が住み慣れた地域で尊厳をもって自分らしく安心して暮らせるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を推進する為、地域や関係機関との連携強化・充実を図った。このため、以下の3項目について重点的に取り組んだ。
 - 介護予防の普及・啓発の実践
 - 住民全体で高齢者を支援する地域づくりの推進・連携強化
 - 認知症高齢者及びその家族が住み慣れた地域で生活できる支援体制の充実

推進事業

高岡市の委託を受け、以下の事業を行った。

- ◇ 包括的支援事業
 - 地域包括支援センター運営事業・在宅医療/介護連携推進業務・認知症地域サポート事業
 - ネットワーク構築事業
- ◇ 地域ケア会議推進事業
 - 地域ケア会議開催業務 年6回
- ◇ 生活支援体制整備事業
 - 支えあう地域づくり会議、情報誌の作成、地域で介護予防活動を行う方の情報交換会は、コロナ禍の為開催中止とした。
- ◇ 介護予防・日常生活支援総合事業
 - 介護予防ケアマネジメント事業・普及啓発型プログラム・地域における介護予防活動支援

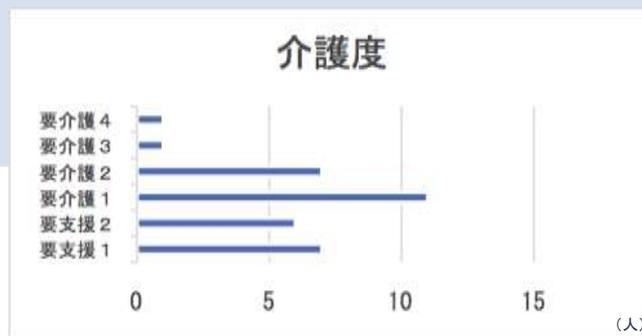
サービス付高齢者向け住宅高志の郷

<事業概況>

○居室数 45室

○令和3年3月末時点

入居数45人 42室（空3室）



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 年間の入居率維持目標に対して、新規入居の確保に努め、95%以上を維持することが出来た。
- ◇ 入居の皆様に、安全・安心・充実した生活を提供できるように協力医療機関や介護サービス関連機関（居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等）と連携し、入居者の皆様の要望に沿った介護サービスの提案や有償サービスの提供に努めた。
- ◇ 体調が悪い時には早めの受診を勧め、協力医療機関と協力して体調の回復のための援助を行った。高志の郷デイサービスセンターの看護師による無償健康相談を開始し、月2回入居者宅にて個別に行った。今後は、もっと利用して頂けるように周知を行っていきたい。
- ◇ 日々の安否確認、生活相談、検温により入居者の皆様の状態や要望・苦情を把握し、ご家族様等との連絡・連携を行い、適切で要望に沿った介護サービス、有償サービスの提供などにより、生活のサポートを行った。

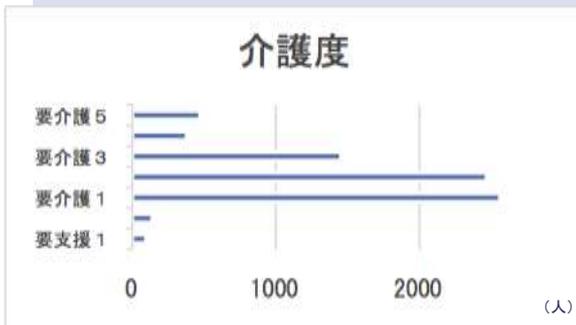
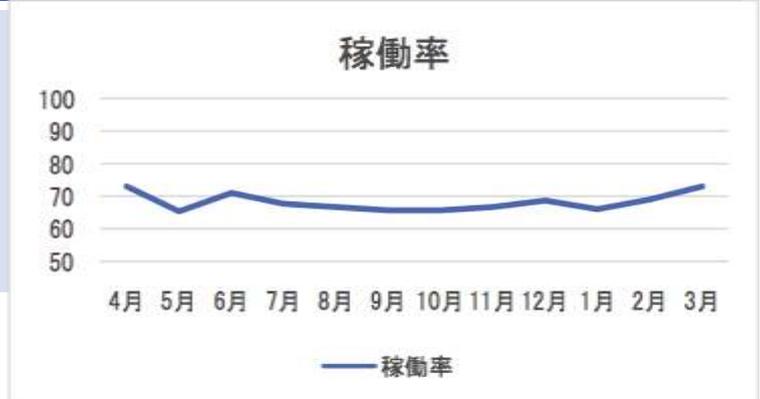
業務改善

- ◇ 施設設備については、日頃から点検を行い、破損箇所や危険箇所は速やかに修繕等を行うなど入居者の皆様の安全の確保に努めた。
- ◇ 小矢部川、庄川が大雨で増水し堤防が決壊した場合、1階（事務所、デイサービス）は浸水すると予想される。この場合、エレベーターが使えなくなると想定されるため、サ高住やデイ玄関等からの浸水を遅らせるため、土嚢を購入し水害に備えた。また、災害時に入居者の皆様の安全を守るため、災害対策マニュアルの整備や避難訓練を実施し、非常時に対応できるように努めた。
- ◇ 入居希望者の方や関係機関等（居宅介護支援事業所や地域包括支援センター）への情報提供を行い、新規の入居につなげていくことに努めた。

高志の郷デイサービスセンター

<事業概況>

- 定員 30名 営業日数 311日
- 年間稼働率 68.2%
- 年間延利用者数 6,365名
- 年間平均介護度 2.1
- 1日平均利用者数 20.5人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 令和元年度より中重度者の受け入れを積極的に行ったが、利用者の入院・入所等による利用中断者の増加で稼働率が低下した。
- ◇ ストーマ造設者、バルーンカテーテル留置者等を受け入れ実績を積み上げることで、ケアマネジャーの信頼は得ていると感じている。また、総合事業を開始したことで、要支援者の受け入れも可能になり、利用者獲得の幅が広がった。こうしたことを踏まえて今後も稼働率の向上に努めていく。
- ◇ 利用者や家族からの希望には可能な限り対応するように努めた。アンケート調査については実現できていないが、今後実施したいと考えている。

業務改善

- ◇ 相談員、管理者による居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等の訪問、広報誌の配布やホームページの活用等により、利用者情報や空き情報などの情報提供をこまめに行うよう努めた。
- ◇ 利用者様の体調変化、状況の変化等があった場合、ケアマネジャーとこまめに連絡をとり情報の共有を図り信頼関係を築いていくように努めた。
- ◇ サ高住と併設している特徴を生かして、両事業所が協同した運営に取り組んでいる。
- ◇ 当施設の立地の利点を生かして、近隣の小・中学校や保育園からの訪問を充実させることで地域との交流を進めるように努めたが、新型コロナウイルス感染症下のため、訪問は受け入れ出来なかった。
- ◇ 業務マニュアルについては、現状にあったものに見直しを行った。